

# 平成23年度外部評価資料

安心して学べる修学環境の整備

学士課程教育における質の向上

就業力及び就職率の向上のための諸方策



平成24年1月  
福岡教育大学



## - 目 次 -

### 評価項目1:安心して学べる修学環境の整備

- 【評価基準1】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1  
図書館が新刊書の購入及び蔵書書籍の整理や貸出，電子ジャーナル等を含めて，学生の勉学に利するよう配置され，活用されていること。
- 【評価基準2】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3  
授業の準備や自習のための学習スペースが確保されているとともにインターネット等の利用環境が整っていること。
- 【評価基準3】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5  
修学や履修に関する基本情報が，配布物や掲示板，連絡網等により，学生に適切に周知されていること。
- 【評価基準4】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6  
キャンパスや寄宿舍における安全・安心のための環境整備が行われるとともに，障害のある学生が使いやすい環境整備がなされていること。

### 評価項目2:学士課程教育における質の向上

- 【評価基準1】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 1  
ディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシー，アドミッション・ポリシーが策定されるとともに，三位一体のものとなっていること。
- 【評価基準2】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 2  
ディプロマ・ポリシーの下に，育てる資質能力がより具体化されて示されていること。
- 【評価基準3】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 3  
大学入学期の教育課題が把握され，改善のための検討がされていること。
- 【評価基準4】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 4  
FDに関する研修や相互研鑽が活発になされ，大学における授業改善の努力が継続されていること。
- 【評価基準5】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 6  
学生生活に関する実態調査を実施し，学生の満足度を把握し，改善に努めていること。

### 評価項目3:就業力及び就職率の向上のための諸方策

- 【評価基準1】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 7  
就業力及び就職率の向上のための全学の基本方針が策定されていること。
- 【評価基準2】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 8  
適切なカリキュラム支援と就職の指導体制が整えられていること。
- 【評価基準3】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 9  
キャリア支援センターにおける情報提供，相談や助言のできる体制が整えられていること。



## 評価項目1 安心して学べる修学環境の整備

### 評価項目1の自己評価及びその判断理由

**(自己評価)** それぞれの基準を満たしており、期待される水準にある。

(判断理由)

**【評価基準1】:** 図書館が新刊書の購入及び蔵書書籍の整理や貸出、電子ジャーナル等を含めて、学生の勉学に利するよう配置され、活用されていること。

図書館が収集・保存・提供している図書館資料(図書、雑誌、電子的情報(電子ジャーナル及びデータベース等)及び視聴覚資料(DVD、CD、ビデオ等)等)の所蔵状況及び利用についての検証結果を以下に記す。

図書館では毎年学生の勉学のため、教員の推薦による図書、シラバス掲載の参考図書、留学生用図書、学生購入希望の図書、後援会の寄付による図書等を購入している。

図書の購入にあたっては、教育系大学としての特色ある蔵書構築を進めていることから学術図書だけでなく、教養を涵養するための図書(入門書や新書等)も購入しているが、分野としては、社会科学分野、特に教育学分野の蔵書が充実している。

平成23年3月現在、総所蔵冊数は、529,993冊(和書(416,435冊)と洋書(113,558冊)の総計)であり、分野別の蔵書数では、教育学分野を含む社会科学分野の図書が全体の34%を超えており、本学の特色の出た蔵書構成となっている。

学生による図書の貸出冊数は、昨年度に関して、社会科学分野の図書の貸出冊数(13,895冊)が学生の総貸出冊数(33,960冊)の41%となっており、社会科学分野の図書の貸出が蔵書構成を反映していることがわかる。

**【資料 1-1-1】** 平成22年度 図書の所蔵状況及び貸出冊数について

図書以外の図書館資料は、雑誌が所蔵種類9,407誌、受入種類1,995誌、電子ジャーナルが4,596タイトル、視聴覚資料が2,640タイトルとなっている。そのほか図書館では、教科書及び関連資料を国内外から収集している。

**【資料 1-1-2】** 福岡教育大学附属図書館概要 2011

なお、電子ジャーナルは、最新の学術情報の入手手段として有効なツールであるが、コンテンツの主体が外国語の論文であるためか利用は決して多くない。一方、国内の学術文献の検索できるデータベース CiNii は利用が多い。

**【資料 1-1-3】** 電子ジャーナル及びデータベースの利用統計 2010年度

以上の検証結果から，学生の勉学に対するサポートがある程度達成されているものと解釈でき，本学では「図書館が新刊書の購入及び蔵書書籍の整理や貸出，電子ジャーナル等を含めて，学生の勉学に利するよう配置され，活用されている」と判断できる。

**【評価基準2】: 授業の準備や自習のための学習スペースが確保されているとともにインターネット等の利用環境が整っていること。**

自主的学習環境については、全学利用施設として、情報処理センター及び共通講義等のパソコンほか、附属図書館の自習スペース等を整備しており、グループ形式又は情報機器・視聴覚教材の活用等による多様な自主的学習の場としての活用度が高い。また、各教棟においては、講座単位で資料・図書室及び実習準備室等を学生の自主的学習の用に供しているほか、大学院学生用の研究室を各専攻・コースごとに設けている。

**【資料1-2-1】 自主的学習環境の整備状況**

**【資料1-2-2】 棟別平面図（各教棟）**

**【資料1-2-3】 自主的学習環境の整備状況（部屋の写真）**

なお、更なる学生のニーズに応えるため、共用スペースの創出を図る目的で、平成18年に制定した「福岡教育大学教育研究共用スペース規程」に基づき、施設の大規模改修時に、従来の固定化された室の利用を見直すことによって、学生のための自習スペースやパソコン室などの整備を行ってきた。平成19年度以降に全面改修した自然科学教棟及び共通講義棟にはラウンジやコモンスペースを設置し、常時利用可能な自習スペースとして有効機能している。

**【資料1-2-3】 自主的学習環境の整備状況（部屋の写真）**

**【資料1-2-4】 棟別平面図（ラウンジ，コモンスペース）**

また、平成23年3月に福岡教育大学教育研究共用スペース規程を改め、「国立大学法人福岡教育大学施設有効活用規程」を制定し、今後の新築又は増築、大規模改修時等に共用スペースを確保することとしている。

**【資料1-2-5】 国立大学法人福岡教育大学施設有効活用規程**

自主的学習環境への満足度を関し、特に附属図書館及びパソコン教室については、80%以上の学生が「学習に活用できる施設になっている」等の回答をしている。

**【資料1-2-6】 図書館及びパソコン教室の学習環境への満足度**

また、自主学習のための利便性を更に高めるため、平成20年度に全面改修した共通講義棟パソコン室の一部を移設し設備を充実した。

**【資料1-2-2】 棟別平面図（各教棟）**

**【資料1-2-3】 自主的学習環境の整備状況（部屋の写真）**

以上のような取組みの結果、自主的学習環境として、全学利用のパソコン室及び附属図書館の自習スペース等のほか、各教棟においては、講座の資料・図書室及び実習準備

室等，大学院学生用の研究室，ラウンジ及びコモンスペース等を整備しており，多様な学習形態又は利用時間帯に対応するものとして，学生の自主的学習ニーズを充足しており，活用度も高い。これらのことから，本学では「授業の準備や自習のための学習スペースが確保されているとともに，インターネット等の利用環境が整っている」と判断できる。



**【評価基準3】：修学や履修に関する基本情報が，配布物や掲示板，連絡網等により，学生に適切に周知されていること。**

本学では修学や履修に関する基本情報を適切に周知するため，以下に示す方法で学生への周知を行っている。

(1) 掲示による周知方法【資料 1-3-1】 掲示による周知方法

学生センター掲示板に紙による掲示

(2) Webによる周知方法【資料 1-3-2】 webによる周知方法

福岡教育大学総合情報ポータルサイト(FUE-IIPS)に登録することにより，即時に周知を行う。また，掲示登録を行う際，学生が事前に登録しているメールアドレスに送信することも可能である。

平成23年度後期から学生への成績を，従来の紙による配布からWeb上での閲覧に変更した。(ただし，本学のセキュリティ上から閲覧は学内端末に限定している。)

平成25年度より開講される「教職実践演習(4年生対象)」に伴い必要となる，履修カルテのWeb化を導入しており，現在，順調に運用している。

《掲示情報》

休講情報，補講情報，大学からのお知らせ，学生個人への伝言情報等

(3) 電子掲示板による周知方法【資料 1-3-3】 電子掲示板による周知方法

福岡教育大学総合情報ポータルサイト(FUE-IIPS)と連動した電子掲示板(プラズマディスプレイ)による掲示。

《設置台数・設置場所》

3台(学生センター2階，学生会館2階，学生会館1階食堂内)

授業連絡や学生呼び出しなどは，基本的には全て上記1の掲示方法により周知する。

ただし，休講情報やその他特に早急な周知が必要な場合は，Webによる周知方法を用いる。

本学では学生に対する情報の伝達を確実なものとするため，これら複数の周知方法を設定している。このことから，本学では「修学や履修に関する基本情報が，配布物や掲示板，連絡網等により，学生に適切に周知されている」と判断できる。

**【評価基準4】: キャンパスや寄宿舍における安全・安心のための環境整備が行われるとともに、障害のある学生が使いやすい環境整備がなされていること。**

本学キャンパスや寄宿舍の環境に関して現状を把握するため、以下に示す観点ごとに検証を行った。

(1) 施設の老朽状況

建物の経年（本学と全国）

本学は築30年以上の建物の占める割合が全国平均に比べ高いが、老朽化した建物に対する改修率は66%で全国平均と同じである。

**【資料1-4-1】 施設の老朽状況**

施設の性能評価（技術センター、学生センター、事務局、学生会館、図書館・教育心理教棟）

国立教育政策研究所文教施設研究センターより、国立大学施設が備えるべき性能水準に照らして、対象建物がどの程度の状態にあるかを評価する手法が提示された。

この手法により、本学の主たる未改修建物を評価した。評価の格付けはいずれも「グレードD」であり、低炭素化に関する性能、耐震性、老朽化などに問題があり改修の緊急性が高い。

**【資料1-4-1】 大学施設の性能評価**

耐震性能

構造耐震指標（ $I_s$  値）が0.3未満は地震の振動および衝撃に対して倒壊、または崩壊する危険性が高いとされている。本学は、耐震性の低い建物について平成18年より順次改修を行ってきており、現時点で教育・研究施設については、 $I_s$  値0.4未満の建物は存在しない。

**【資料1-4-1】 耐震診断実施状況等調査**

(2) 学内環境整備「Before After」平成22年度版

平成22年度に、年次計画に基づき学内施設環境の改善として参考資料のような事業を実施した。

**【資料1-4-2】 学内環境整備「Before After」平成22年度版**

(3) 施設の利用状況

平成22年度～23年度にわたり「福岡教育大学施設有効活用規程」に基づきトイレ、講義室を除く諸室に対して利用状況調査を行った。

**【資料1-4-3】 国立大学法人福岡教育大学有効活用規程**

【資料 1-4-3】 施設の利用状況調査 作業フロー図

・現地ヒアリング調査

利用状況基礎調査票に基づき、利用頻度の低い部屋については、使用者に同席いただき、ヒアリング調査を行った。

・改善勧告

ヒアリング調査に基づき、利用者に対し「施設の利用方法の改善勧告」を提出し改善を求めた。

・有効利用

使用者より、利用方法の改善について回答を得た。

(4) 防災・防犯

消防設備の維持管理（維持管理の内容、22年度修繕実績）

消防法の規程により、年に2回の点検および不良箇所の速やかな修繕など、対応を行っている。

【資料 1-4-4 -1】 福岡教育大学消防設備等保全・防災管理点検業務

【資料 1-4-4 -2】 平成22年度 消防設備修理実績

構内防犯カメラ

キャンパスおよび女子寮への出入り口、および学内の要所に防犯監視カメラを設置し門衛所において昼夜不審者の侵入等監視している。カメラの画像は1ヶ月程度保管管理している。

【資料 1-4-4】 防犯カメラ設置位置図

(5) バリアフリー

バリアフリー対策年次計画等、障害者、特に車椅子利用者が安全に支障なく施設を利用できるような施設環境づくりを推進している。

【資料 1-4-5】 福岡教育大学バリアフリー年次計画

【資料 1-4-5】 平成22年度バリアフリー工事竣工写真

(6) 交通

赤間キャンパスにおいて安全の確保のため歩行帯と車道とを分離し、安全への配慮を行っている。

【資料 1-4-6】 交通（歩車道分離・駐車場・駐輪場）

(7) サイン

あらゆる人が見やすいことを前提とするユニバーサルデザインの観点からサイン計画を進めている。

【資料 1-4-7】 来訪者への案内およびサイン計画

## ( 8 ) 環境への配慮

### 化学薬品管理・実験廃液処理

化学薬品の取り扱いについては、「国立大学法人福岡教育大学化学薬品管理マニュアル」を定め、労働安全衛生法、高圧ガス保安法及びその他の法規制にかかる化学薬品の取り扱いについて適正な管理および使用を明確にしている。

また、実験廃液の処理に関しては、「国立大学法人福岡教育大学特殊排水等の処理について(重要通知)」により、水質汚濁防止法に定める物質等を法規に定める排出基準以上を排出しないようにするとともに、有害物質廃液などを容器に保管し、適宜専門業者に処理を委託している。

【資料 1-4-8】 [国立大学法人福岡教育大学化学薬品管理マニュアル他](#)

### 廃棄物およびリサイクル等

事業所(大学等含む)の塵芥処理は、宗像市が許可した収集運搬業者に依頼をしている。塵芥は燃やすゴミと燃えないゴミに分別し、学内の塵芥置き場に集積し、業者が学外搬出後処理をしている。再使用可能な机、椅子、ロッカーなどは学内再利用サイトにより、利用者を募り再使用している。新聞紙、雑誌、ダンボールは古紙回収業者が引き取り、再生紙、タマゴパックなどの資源として再利用している。

【資料 1-4-8 -1】 [福岡教育大学の塵芥処理について](#)

【資料 1-4-8 -2】 [福岡教育大学学内再利用サイト](#)

### 省エネルギー

教育研究活動および大学運営において、省エネルギー対策、省資源及び廃棄物の排出削減などが重要と考えている。これらを踏まえて省エネルギーを推進する体制や削減目標を定め、各部局の使用電力量の公表、環境活動取組の公表など具体的な活動に取り組んでいる。

【資料 1-4-8 -1】 [国立大学法人福岡教育大学エネルギー管理規程](#)

【資料 1-4-8 -2】 [福岡教育大学における省エネルギー・温室効果ガス削減等のための実施計画について\(重要通知\)](#)

【資料 1-4-8 -3】 [赤間キャンパス全体電力使用量・最大デマンド値](#)

【資料 1-4-8 -4】 [福岡教育大学環境活動結果報告シート H23年8月](#)

### みどりのカーテンプロジェクト

本学では、6月30日、事務局棟の壁面に、電力削減と猛暑に備え植物の葉で窓などを覆って日射を遮る「みどりのカーテン」を設置した。また、附属学校・園でも「壁面緑化チャレンジ」と銘打ち、省エネルギーと理科の授業の一環として同様の取り組みを行っている。

【資料 1-4-8】 [みどりのカーテンプロジェクト](#)

#### ( 9 ) 維持管理状況

##### 修繕等の年次計画

毎年、施設系職員が施設・設備の不具合や機能劣化について現地調査や聞き取り調査を行い、修繕等を要する箇所を把握している。これらを改善するために必要な経費は約 18 億円に達しているが、「施設整備・修繕等の年次計画」に基づき、計画的に改善を行っている。

【資料 1-4-9】 施設整備・修繕等の年次計画

##### 施設・設備の保全業務

施設の点検・保守については年間スケジュールをたて、事故を未然に防ぐための定期点検を実施している。

【資料 1-4-9 -1】 福岡教育大学施設維持管理計画

【資料 1-4-9 -2】 福岡教育大学施設管理・運営業務

#### ( 10 ) 施設満足度意識調査

施設に対するユーザーの声を定期的に調査し、施設整備に反映させていくことは、ユーザー満足度を高め、効果的な投資を行う上で重要であることから、アンケート調査結果を施設改善に生かすことを目的として行っている。

##### 共通講義棟改修

建物全体としての総合満足度、講義室の位置・広さ・数・設備等の使勝手、トイレ・洗面の位置・広さ等を調査し、結果は「非常に満足している」、「やや満足」が大半を占めている。

【資料 1-4-10】 共通講義棟改修整備 施設満足度調査結果

##### 自然科学教棟改修

建物全体としての総合満足度、講義室の位置・広さ・数・設備等の使勝手、実験室の位置・広さ・数・設備等の使い勝手等を調査し、結果は「非常に満足している」、「やや満足している」が大半を占めている。

【資料 1-4-10】 自然科学教育棟改修整備 施設満足度調査結果

#### ( 11 ) 施設整備実績（過去 3 年）

施設整備による過去 3 年間の修学環境整備は耐震対策や老朽化したインフラの整備などとなっている。

【資料 1-4-11】 施設整備実績（過去 3 年間）

#### ( 12 ) 平成 23 年度修繕等実績

施設を維持管理するために、緊急な対応が必要な小規模修繕について平成 23 年 4 月初めから同 9 月までについて件数、金額等を示す。

【資料 1-4-12】 平成 23 年度修繕等実績

修学環境整備は、年次計画により着実に改善が進められている。蓄積された老朽等、施設の改善に要する費用が18億円に達するなど、まだ課題はあるものの、「キャンパスや寄宿舍における安全・安心のための環境整備が行われるとともに、障害のある学生が使いやすい環境整備がなされている。」と判断できる。

## 評価項目2 学士課程教育における質の向上

### 評価項目2の自己評価及びその判断理由

(自己評価) それぞれの基準を満たしており、期待される水準にある。

(判断理由)

【評価基準1】: ディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシー，アドミッション・ポリシーが策定されるとともに，三位一体のものとなっていること。

平成22年度から始まった国立大学法人第二期中期目標期間において、「入学から卒業・修了までの一貫した教育プログラムを提供するため、アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）を三位一体のものとして明確化して学内外に積極的に公開する」ことを中期計画に掲げた。

平成22年度に、教育向上推進室において、学部のディプロマ・ポリシー案を策定した。続いて、ディプロマ・ポリシー案に基づき、カリキュラム・ポリシー案を策定し、各講座の意見聴取を経て、確定した。その後、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、カリキュラムの体系性・系統性の検証を行った。

また、入学試験改善室において、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえて、既存のアドミッションポリシーの点検・整備を行った。

【資料 2-1-1】 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

【資料 2-1-2】 カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

【資料 2-1-3】 アドミッションポリシー

【資料 2-1-4】 カリキュラムの体系性・系統性

現在、ディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシー，アドミッション・ポリシーを踏まえ、平成25年度からのカリキュラム改訂の作業を進めている。

以上のことから、「ディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシー，アドミッション・ポリシーが策定されている」ことは明らかであり、それらの検証作業が確実に行われていることから、「三位一体のものとなっている」と判断できる。

**【評価基準2】: ディプロマ・ポリシーの下に、育てる資質能力がより具体化されて示されていること。**

平成23年度に、教育向上推進室において、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、本学における教育の到達目標（スタンダード）について検討を行った。

まずスタンダードの共通部分（各講座で検討する際のモデル）を次のとおり策定した。

#### 1．教養教育

(1) ディプロマ・ポリシーにおいて示されている「教養」の諸要素を勘案しながら、全学共通の内容とした。

#### 2．専門教育

(1) ディプロマ・ポリシーの柱である「専門性」、「実践力」、「社会性」、「自己実現力」に含まれる諸要素を勘案しつつ、学校教育3課程と生涯教育3課程それぞれにおいて養成する人材像に基づく内容とした。

(2) カリキュラムの一貫性、系統性を考慮しつつ、「基礎」と「総合」の2段階を目安として設定し、それぞれの内容を重点的に表現した。別紙1及び別紙2の表では、2年終了時の達成目標としての「基礎」が卒業時の達成目標としての「総合（発展）」とした。

(3) 学校教育3課程については、教育職員免許法上の枠組みに基づきつつ、教育実習や教職実践演習との関連、またこれまでの本学における質の高い教員養成を行うための取り組みの特質を反映させることにも配慮した。

また、スタンダード項目と現行カリキュラムにおける各講座の開設科目との対応について確認を行った。

今後、策定したスタンダードの共通部分に基づき、各講座のスタンダードについて、2月末を目処に策定する予定としている。

[【資料 2-2-1】 スタンダード学校教育3課程](#)

[【資料 2-2-2】 スタンダード生涯教育3課程](#)

以上のことから、本学では「ディプロマ・ポリシーの下に、育てる資質能力がより具体化されて示されている」と判断できる。



**【評価基準3】: 大学入学期の教育課題が把握され、改善のための検討がされていること。**

本学では、新入生の大学生活への適応を図り、専門教育において必要となる基礎学力の向上をめざすため「大学入門科目」を設定し、平成19年度から従来の科目の名称・内容を見直し、「フレッシュマンセミナーA」、「フレッシュマンセミナーB」、「情報機器の操作」の3科目として、講座毎に開講している。

「フレッシュマンセミナー」では、大学で学ぶための基本的姿勢とスキルの習得を図るとともに、必要に応じて補充教育も行っている。「情報機器の操作」では、教育現場において必要なパソコン操作の基礎を学習する。

教養教育委員会において、平成19年度に「大学入門科目」の担当者会議を科目別に設け、より充実した内容とするための意見交換を行った。また、平成20年度から平成22年度まで各科目の担当者へアンケート調査を行うとともに、教養教育委員が担当教員と個別面談し、授業改善のための要望事項等を取りまとめ、関係課・委員会へ提出した。

[【資料 2-3-1】 平成20年度資料](#)

[【資料 2-3-2】 平成21年度資料](#)

[【資料 2-3-3】 平成22年度資料](#)

また、平成22年度に、「大学教育としての1,2年次生における補充教育の必要性(高校の教育において身につけておくべき内容が十分でなく、それを補うために大学で独自に行う教育の必要性)の有無について、1・2・3年次生を対象に、調査・分析して頂きたい。」との学長諮問を受け、カリキュラム検討委員会において、調査・分析を行った。

その結果、補充教育の提供について早急に対応を検討する必要性は見受けられなかったが今後も分析を継続する必要がある旨の答申が行われた。

[【資料 2-3-4】 教育の質の向上に向けて\(回答\)](#)

平成23年度は、教養教育委員会において、教員を対象として補充教育の必要性について調査を行い、現在、集まった回答を分析中である。

[【資料 2-3-5】 補充教育の充実に関する調査について\(依頼\)](#)

以上のことから、本学では「大学入学期の教育課題が把握され、改善のための検討がされている」と判断できる。

**【評価基準4】: FD に関する研修や相互研鑽が活発になされ、大学における授業改善の努力が継続されていること。**

教育の質の向上に資するための、授業改善に向けた多面的・多方向からの企画・取り組みが、平成18年度から、以下のように継続的に展開されており、本学のFD活動は全体として充実・機能している。

FD研修については、平成22年度は、講座センター内授業研修、全学公開授業、新任教員FD研修会といった、相互研鑽・相互研修型の企画を複数実施した。

**【資料 2-4-1】** [講座・センター内授業研修実施報告書](#)

また、教材や授業方法の改善を支援するための教材作成支援講習会、全学的にFDを啓発し、教育の質の向上に資するためのFDセミナー、大学院の授業改善を目的に大学院教育の質の向上に資するための大学院FDセミナーといった多面的要素・多方向からの企画が実施された。新任教員FD研修会においては、参加者の約80%がためになったと回答している。

**【資料 2-4-2】** [福岡教育大学2010年度 FD活動報告書 \(P164\)](#)

**【資料 2-4-2】** [福岡教育大学2010年度 FD活動報告書 \(P163 - P166\)](#)

FDセミナーについては、キャリアカウンセラーである大多正人氏を外部講師とし、現代の重要課題である「若者の意欲をプロデュース」という題目で実施した。アンケートにより80%以上が教育改善のためになったと回答していた。「今後の学生指導や授業にどのように役立つか」については「学生にこれまで以上に積極的に声をかける」「もっと学生をほめる。」等が挙げられていた。

**【資料 2-4-2】** [福岡教育大学2010年度 FD活動報告書 \(P161 - P162\)](#)

**【資料 2-4-2】** [福岡教育大学2010年度 FD活動報告書 \(P160 - P162\)](#)

教材作成支援講習会においては、94%が役立つと回答しており、「もっと見やすいプレゼンが作れる」等、今後の授業の充実に役立つとの感想を得られ、今後の研修継続の要望もあった。

**【資料 2-4-2】** [福岡教育大学2010年度 FD活動報告書 \(P170 - P171\)](#)

**【資料 2-4-2】** [福岡教育大学2010年度 FD活動報告書 \(P169 - P171\)](#)

大規模授業での双方向性を向上させるためのソクラテック・ナノの効果的な活用法を検討し、簡易版マニュアル作成、授業で試験的な実施、使用の手引作成を行った。

マニュアル、使用の手引きを教職員グループウェア「ガルーン」に掲載し、活用について周知した。実際に使用した授業における学生からの評価は良好であった。

- 【資料 2-4-2】 福岡教育大学 2010 年度 FD 活動報告書 ( P 1 7 1 - P 1 7 3 )
- 【資料 2-4-3】 ソクラテック・ナノ利用マニュアル
- 【資料 2-4-4】 ソクラテック・ナノ使用の手引
- 【資料 2-4-5】 ソクラテック・ナノを用いた講義に対する，学生向けアンケート結果

大学院 FD 研修会は，ファシリテーションという，大学院ならではのテーマを取り上げて，参加教員のほぼ全員から，今後の授業改善に役立つと回答を得，大学院の FD として有意義なものであったと判断され，文字通り，相互啓発・相互研鑽型の研修を実施できたと考えられる．

- 【資料 2-4-2】 福岡教育大学 2010 年度 FD 活動報告書 ( P 1 7 5 - P 1 7 7 )

授業評価については，前期中間授業評価，前期期末授業評価，後期中間授業評価，後期末授業評価を実施している。中間授業評価においては，学生からの意見を取り入れて授業改善を行うシステムにより，学部・大学院担当教員が授業改善を行った。

- 【資料 2-4-2】 福岡教育大学 2010 年度 FD 活動報告書 ( P 1 6 0 )
- 【資料 2-4-2】 福岡教育大学 2010 年度 FD 活動報告書 ( P 1 6 0 - P 1 6 2 )

期末授業評価においては，平成 18 年度から平成 21 年度まで，学部・大学院における授業に関する総合満足度の推移を算出している。学部の授業科目は，5 段階評価で 4 点前後を推移しており，大学院の授業科目については，4.6 点前後を推移している。学部・大学院の授業に関しては，全体として良好な状態・内容を維持しているといえる。

- 【資料 2-4-2】 福岡教育大学 2010 年度 FD 活動報告書 ( P 1 6 0 - P 1 6 2 )
- 【資料 2-4-2】 福岡教育大学 2010 年度 FD 活動報告書 ( P 1 5 7 )
- 【資料 2-4-2】 福岡教育大学 2010 年度 FD 活動報告書 ( P 1 7 8 )

授業評価実施後の改善効果については，「授業評価結果に対する考察と今後の授業改善方針」を各教員に提出させることでチェックしている。平成 22 年度については，改善事項として「予復習の指示を明確にする」をあげている教員が最も多く，授業時間外の学習を充実させるために，多くの教員が努力していることがわかった。また，「講義内容の精選を行う」，「授業資料の配布の方法や内容を工夫する」，「授業内容の難易度を調整する」という改善事項をあげている教員も多く，授業内容等に関する改善意識・努力も高いことがわかった。

- 【資料 2-4-2】 福岡教育大学 2010 年度 FD 活動報告書 ( P 1 6 0 - P 1 6 2 )
- 【資料 2-4-2】 福岡教育大学 2010 年度 FD 活動報告書 ( P 1 7 8 )
- 【資料 2-4-2】 福岡教育大学 2010 年度 FD 活動報告書 ( P 1 7 9 )

さらに，当 FD 事業については，平成 24 年度に向け，現在さらなる改善を検討している。これらのことから，本学では「FD に関する研修や相互研鑽が活発になされ，大学における授業改善の努力が継続されている」と判断できる。

**【評価基準5】: 学生生活に関する実態調査を実施し、学生の満足度を把握し、改善に努めていること。**

本学では平成6年度から、おおむね3年に一度、全学生を対象とした「学生生活に関する調査」を行っている。この調査は、本学に在学する学生の日常の学生生活や意見・要望などを聞くことにより、学生生活の現状や課題を把握し、学生生活をより充実したものとするための基礎資料を得ることを目的として実施している。

平成22年度の調査では、調査結果を学生生活改善のためにフィードバックできるように学生委員会において調査項目の見直しを行い、新たに、授業の満足度や満足できない場合の理由、指導教員に対する相談頻度、キャリア支援センター等の利用頻度や満足度等の調査項目を設けた。

**【資料 2-5-1】 平成22年度学生生活に関する調査報告書**

以上のことから、本学は「学生生活に関する実態調査を実施し、学生の満足度を把握し改善に努めている」と判断できる。

## 評価項目3 就業力及び就職率の向上のための諸方策

### 評価項目3の自己評価及びその判断理由

(自己評価) それぞれの基準を満たしており、期待される水準にある。

(判断理由)

【評価基準1】: 就業力及び就職率の向上のための全学の基本方針が策定されていること。

平成22年度から始まった国立大学法人第二期中期目標期間における計画として、第一期中期目標期間の取り組みとして十分に成果が上がらなかった就職支援について、就職率の向上策の策定をあげた。

【資料3-1-1】 「運営方針 第二期中期計画・平成22年度年度計画を策定しました」

この取り組みのために、平成22年度の運営体制より副理事(就職支援担当)を設置し就職率向上に取り組むシステムを確立するとともに、平成23年3月開催の第13回教育研究評議会において、「教員採用試験合格率の向上について」とする教員採用合格率等に関する具体的な数値目標を含む学長提案がなされ、これに沿って全学をあげて取り組むことが確認された。

【資料3-1-2】 教育採用試験合格率の向上について(学長提案)

この数値目標を達成するための具体策について、学長より学生・就職支援室に対して「教員採用合格者の増加を目指す中長期的な戦略の策定について」および「教育効果に応じた教育経費の配分について」が諮問された。

【資料3-1-3】 教員採用合格者の増加を目指す中長期的な戦略の策定について(諮問)

【資料3-1-4】 教育効果に応じた教育経費の配分について(諮問)

学生・就職支援室での慎重な審議後、教員就職率等の向上のための具体策について答申がなされ本学には「教員採用合格者の増加を目指す中長期的な戦略」が策定されている。

【資料3-1-5】 教員採用合格者の増加を目指す中長期的な戦略の策定について(答申)

【資料3-1-6】 教育効果に応じた教育経費の配分について(答申)

このことから、本学では「就業力及び就職率の向上のための全学の基本方針が策定されている」と判断できる。

**【評価基準 2】: 適切なカリキュラム支援と就職の指導体制が整えられていること。**

学生に対する就職支援に関しては、学生就職支援室を設置して、その中で、必要な学生への就職支援内容等について審議している。また実務的には、キャリア支援センターに、各講座の就職担当教員及びキャリア支援センター職員をもって構成する就職担当者連絡会議を置き、就職状況や各講座の就職支援に関する取り組み等について情報の共有および情報交換を行い、各講座等における就職支援の質的向上に努めている。

**【資料 3-2-1】 福岡教育大学キャリア支援センター規程**

これらの組織を活用した平成 22 年度からの就職支援の向上として、  
教員採用試験特別講座の実施及び内容の充実、早期化

**【資料 3-2-2】 平成 24 年度教員採用試験のための特別講座**

全学的な連携により就職支援をするための「就職試験オフィスアワー」の開設

**【資料 3-2-3】 就職試験対策オフィスアワー 一覧**

教育課程外の新規科目として「新聞力養成講座」の立ち上げ

**【資料 3-2-4】 福岡教育大学キャリア支援プログラム「新聞力」養成講座**

就職情報の伝達のための web サイトの充実やメール配信サービスの開始  
SNS 型キャリアポートフォリオの試行

**【資料 3-2-5】 SN 型キャリアポートフォリオの試行，web サイトの充実**

などを行っている。

さらに、キャリア支援センターの改組による、今後のキャリア教育の強化等に向けた具体策の検討を進めており、就職指導体制のさらなる改善に向けた努力がなされている。

これらのことから、本学では「適切なカリキュラム支援と就職の指導体制が整えられている」と判断できる。

**【評価基準3】: キャリア支援センターにおける情報提供，相談や助言のできる体制が整えられていること。**

学生への就職情報の提供に関しては，平成22年度よりキャリア支援センターオリジナルウェブサイトを構築し，様々な情報のタイムリーな発信を開始した。また，このウェブサイトの中に，就職情報メール配信サービスを構築し，情報配信のメールアドレスを登録した学生に対して，より迅速な就職情報の配信を開始した。さらに本学に届いた求人票については，同ウェブサイトにて，就職情報データベースを構築して，就職情報の検索を可能とした。

一方，就職相談・助言に関しては，平成22年4月1日より就職支援アドバイザーを増員し，教員就職に対してよりきめ細やかな指導ができる体制を整備した。このことにより教員採用試験特別講座の回数の増強，内容の充実を図った。

**【資料3-2-2】 平成24年度教員採用試験のための特別講座**

**【資料3-3-1】 平成23年度後期就職ガイダンス一覧（企業等・公務員）**

さらに，学生の就職試験対策として，全学の教職員の協力のもと，「就職支援オフィスアワー」を開設し，学生の就職試験対策について，指導・助言できる体制を構築した。

**【資料3-2-3】 就職試験対策オフィスアワー 一覧**

なお，今後はキャリア支援センターの改組による指導体制の強化や等に向け検討を進め実現を諮るとともに，来年度に予定されているキャリア支援センターの新営，移転に向けて学生が利用しやすい環境整備を進めている。

これらのことから，本学では「キャリア支援センターにおける情報提供，相談や助言のできる体制が整えられている」と判断できる。